

皮膚科 専門研修プログラム

専攻医に必要な、実践的な医療を幅広く身に着けることができます

千葉県は首都圏に位置し人口610万人を抱える大きな県ですが、大学病院の数は少なく、千葉大皮膚科には県内各所から多くの患者さんが来院なさいます。そのため、当科では幅広く多くの疾患を経験できます。特筆すべきは皮膚悪性腫瘍の症例の多さで、手術件数は国公立大学の中で屈指です。ダーモスコピーや皮膚エコーによる診断や、外科手技を十分に学ぶことができます。その他にも、接触皮膚炎やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、皮膚真菌症、乾癬、リンパ腫、抗がん薬治療にも力を入れており、専攻医に必要な実践的な医療を幅広く身に着けることができます。

受入れ人数 : **6名**
選考方法 : 書類選考、小論文、面接



2019年4月千葉大学病院をバックに撮影

■ プログラムの“ここがポイント”

<柔軟で発展的な研修プログラム>

1. 早期に確実に研修到達目標を達成できる。
2. 自らのニーズにもとづいて研修プログラムを設計できる。
3. 研修中から大学院に入学し、臨床に根付いた基礎研究を学ぶができる。

<充実した研修体制>

1. コモンディージーズから希少疾患まで豊富な症例を経験できる。
2. 連携病院では皮膚科的救急疾患を含め、地域特有の皮膚病診療を経験できる。
3. 連携病院は最も遠方の病院であっても車で一時間程度。
4. 臨床・研究含め多方面で活躍する指導医から丁寧な指導を受けることができる。

千葉大皮膚科は若い医局員が構成の中心ですが、皮膚科学の診療、教育、研究のすべてにおいて、その継承と発展に全力で取り組んでいます。

また”We always speak with civility.”を私達のモットーとして掲げ、和の中にも活発な議論を追求しています。一人一人が自分の夢を追い求めて活躍できる、活気ある医局です！

■ プログラムの内容

研修コース

■ 専門研修期間 : 5年

■ 研修連携施設・準連携施設

千葉大学医学部附属病院皮膚科を研修基幹施設とし、千葉市立青葉病院、独立行政法人国立病院機構千葉医療センター、船橋市立医療センター、国保直営総合病院君津中央病院、総合病院国保旭中央病院、を研修連携施設、日本赤十字社成田赤十字病院を研修準連携施設とした研修プログラムです。

■ プログラム責任者 松江 弘之(皮膚科)

■ 研修プログラムに関するお問合せ先

千葉大学大学院医学研究院皮膚科学
若林 正一郎

Tel : 043-226-2505 Fax : 043-226-2128
e-mail : derma-hp@chiba-u.jp

お気軽にお問合せください！

千葉大学病院 総合医療教育研修センターHP
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>
千葉大学病院 見学のお申込み

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/visit/index.html>

○ 研修コース

- 専攻医は皮膚科専門医の取得をめざし、以下の研修コースに基づいて研修を行います。ただし、研修施設側の事情により、希望するコースでの研修が出来ないこともあり得ます。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性があります。
- 期間中、専攻医は指導医や上級医から、皮膚科医としての基本姿勢のみならず、各専領域での知識、技術を学習します。
- 基本的に初年度は大学病院で研修を開始し、2年目以降には連携施設において、充足していない症例を経験します。そして3年目終了までに研修到達目標の多くを達成します。
- 研修施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム管理委員会が協議して決定します。
- 大学院への進学を希望する場合は、松江教授とプログラム管理委員会が協議して大学院入学時期を決定します。



皆さん一緒に楽しく
頑張りましょう！

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	連携	基幹	基幹
b	基幹	連携	連携	連携	基幹
c	基幹	連携	連携	連携	連携
d	基幹	基幹	連携	連携	連携
e	基幹	連携	連携	準連携	基幹
f	基幹	連携	連携or大学院 (臨床・研究)	連携or大学院 (臨床・研究)	大学院 (臨床・研究)

- 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補います。連携施設は原則として1年ごとで異動しますが、諸事情により2年間同一施設の可能性もあります。
- ～d. 皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- 研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。
- 研修3年目以降に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

千葉大皮膚科における特色

他科・他大学との充実した連携・学習の機会があります。

- 千葉アレルギークリニカルカンファレンス(アレルギー膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科合同、年4回)
- Community based conference on skin injury due to molecular target therapy (COSMO) (臨床腫瘍部、千葉県皮膚科医会、皮膚科共催、年2回)
- 千葉生物学的製剤乾癬治療研究会(年2回)
- 千葉小児膠原病懇話会(小児科、整形外科、皮膚科合同、年2回)
- およそ2年に1回名古屋市立大学皮膚科と症例・研究検討会の合同合宿を開催しています。